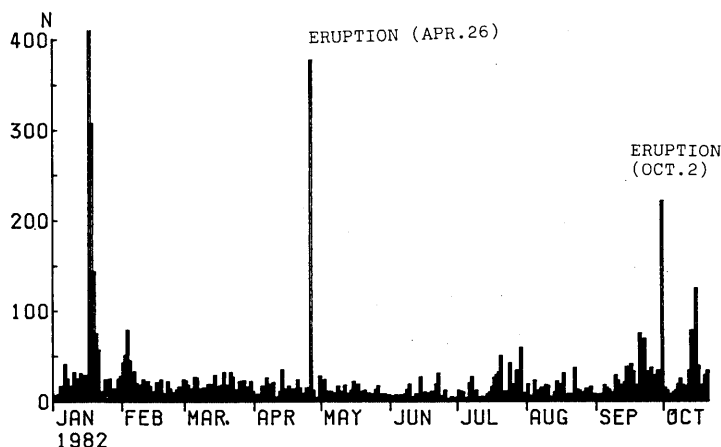


浅間山の1982年1月1日より10月24日までの地震 活動と噴火による山頂火口内部の地形変化*

東京大学地震研究所浅間火山観測所

表題期間中の浅間山の地震活動は第1図に示す通りである。1月17～19日にかけて浅い地震の群発があったが表面現象には特に異常がなかった。¹⁾4月26日には噴火があり、その直後に地震数の増大を見た。その後の地震活動は通常のレベルか或いはそれ以下であったが、9月30日に再び地震が群発し10月2日に極く小規模の噴火があった。



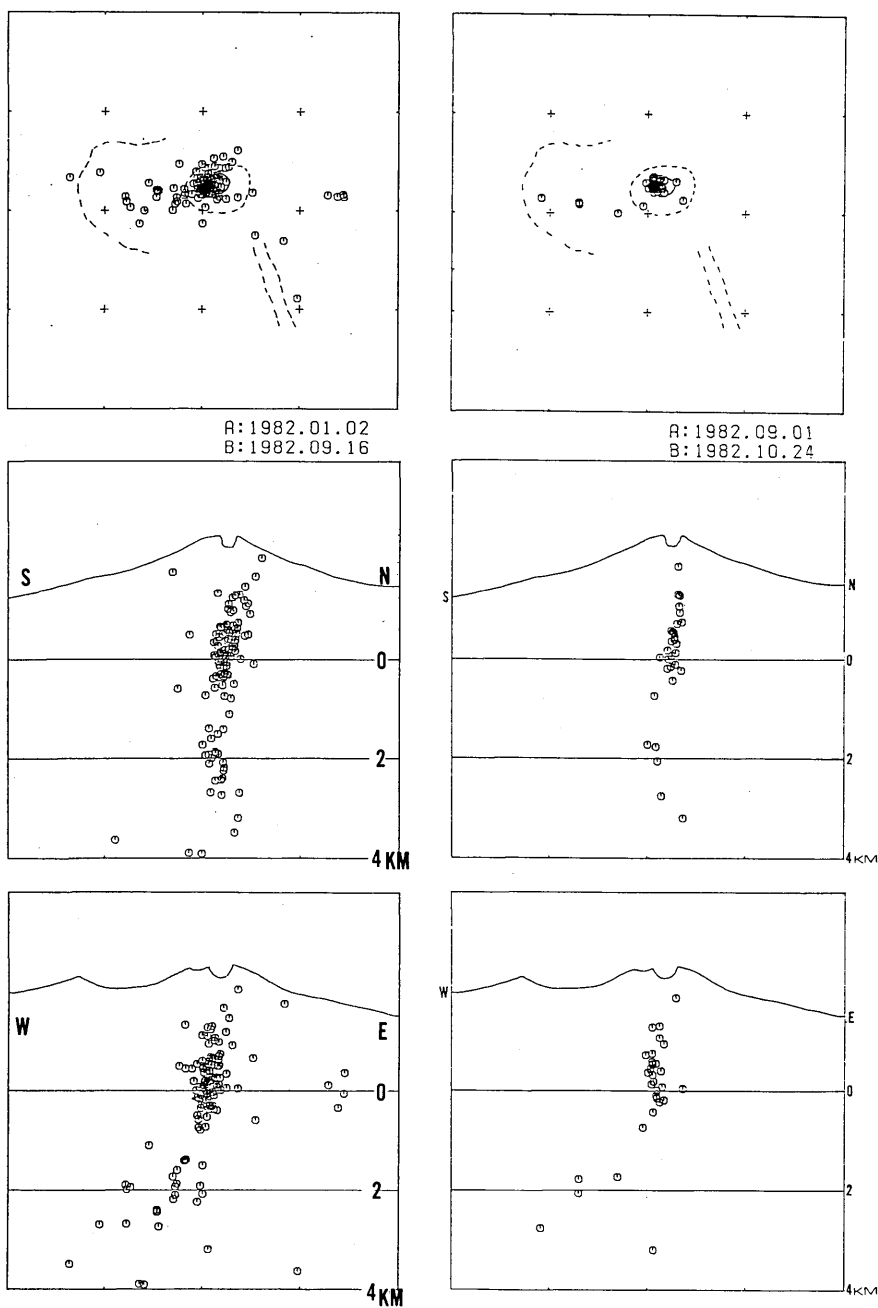
第1図 浅間火山観測所三の鳥居観測点において記録されたB型地震の日頻度
(期間：1982年1月1日—10月24日)

Fig. 1 Daily number of B type earthquakes recorded at Sannotorii
St. of Asama Volcano Observatory during the period Jan.
1—Oct. 24, 1982.

この間の地震の震源を1月2日—9月16日および9月1日—10月24日の両期間について決定したものを示すと第2図のごとくなる。両期間とも特に差異は認められない。多くの地震は火口直下またはやや西よりに分布しているが、やや深い地震は西側の旧火口直下にきめられる。速度構造は2 km/s の一層としているので、深さについての精度はややおちる。ただ、相対的にいって、震源が2つのクラスターに分れ、1つは海水面を中心として、他はそれより2 km深い所に集まっているように見えるのは興味深い。

4月26日の噴火後、7月5—6日に山頂火口内部の調査を行った。²⁾噴火前は、第3図の上に示すように、火口底中央やや東寄りに火孔があり、1973年噴火の溶岩がそのまわりに同心円状に存在していた。しかし、

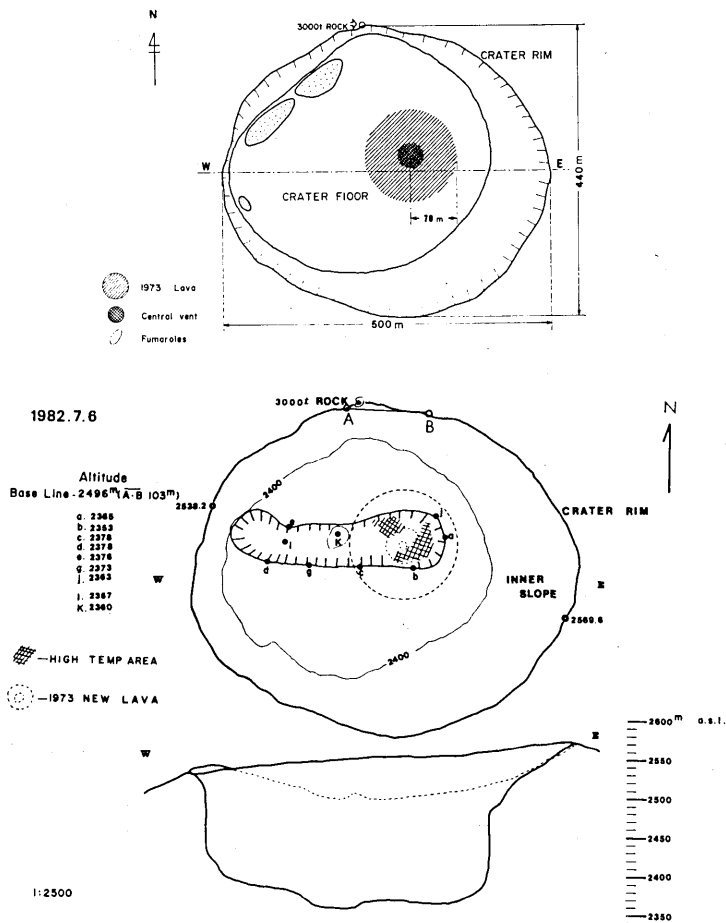
* Received Dec. 6, 1982



第2図 浅間山に発生する地震の震源分布。左側は1982年1月2日より9月16日まで、右側は同年9月1日より10月24日までの地震

Fig. 2 Hypocentral distribution of earthquakes originating from Asama. Left : Jan. 2 - Sep. 16, 1982. Right : Sep. 1 - Oct. 24, 1982.

4月26日の噴火により、この円形の溶岩は吹きとばされ消失した。さらに、火口底にはほぼ東西に走る割れ目が生じた。測量の結果を第3図の下に示してある。この割れ目は東西の長さが260 m、南北の幅は平均して60 mである。複数ヶの vent が連なったものであろう。興味あるのは、第3図上に示してある西北西部の噴気地域が新しく出現した火孔列の西端に対応することである。



第3図 浅間山火口底の地形。上は4月26日の噴火前、下は噴火後。下図の火口北縁のABは測量の基線である。

Fig. 3 Topographic map of the crater floor of Asama. Upper figure is that before the eruption on 26 April and the lower figure is after the eruption. AB at the northern rim is the base line for the survey.

参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所浅間火山観測所(1982): 1982年4月26日の浅間山噴火の概況と地震活動, 火山噴火予知連絡会報, 25, 1-3.
- 2) 下鶴大輔他(1982): 1982年4月26日の浅間山の噴火, 地震研究所集報, 57, 537-559.